



テーマ	温調/インバータのデータを PLC メモリに読み書きしたい		
該当機種	V8 シリーズ	No. TI-M-1066	1/8

### 1. 目的

モニタッチを経由して、温調/インバータと PLC 間でデータの読み書きを行います。

構成例) PLC1 : 三菱電機 QnH(Q) シリーズリンク  
PLC2 : 富士電機 PXR

- 定期的に読み書きする場合  
方法は次の 2 通りです。

- ・転送テーブル 定期読み込み/定期書き込み (2-1 参照)
- ・イベントタイママクロ (2-2 参照)

例) 2sec ごとに PXR の PV 値#31001 を PLC メモリ D100 に転送

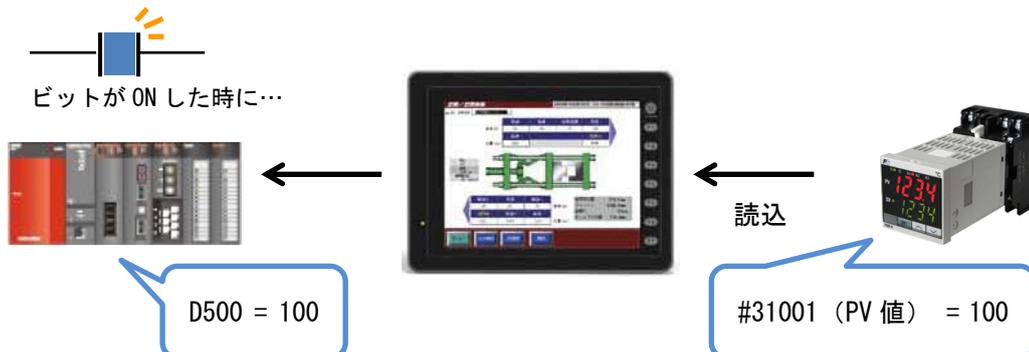


- ・転送テーブルはバックグラウンドで処理をするので、画面の処理サイクルにあまり影響を与えませんが、転送先/転送元メモリは連番で使用します。
- ・マクロは自由にメモリを指定できますが、多用すると画面の処理サイクルに影響を与えます。

- ビットが ON したタイミングで読み書きする場合  
方法は次の 2 通りです。

- ・転送テーブル 同期読み込み/同期書き込み (3-1-1 参照)
- ・グローバルマクロ (3-2-1 参照)

例) ビットが OFF→ON したタイミングで、PXR の PV 値#31001 を PLC メモリ D500 に転送

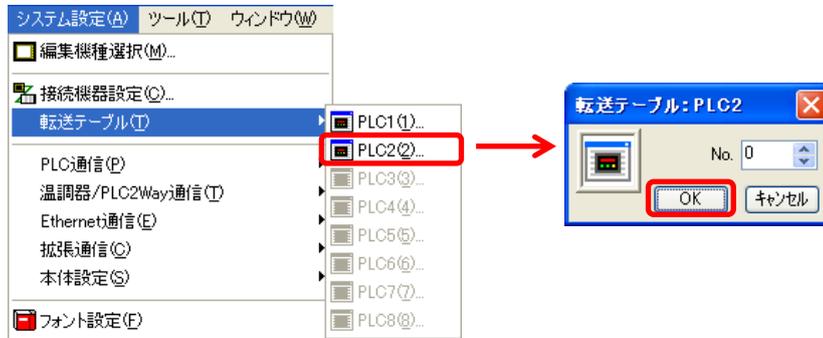


## 2. 定期的に読み書きする場合

### 2-1 転送テーブルを使用する場合

● 設定手順

- ① [システム設定] → [転送テーブル] → [PLC2] からテーブル No. 0 を開きます。



- ② [PLC2 メモリ] に #31001 を設定します。



- ③ [編集] → [転送テーブル設定] を開き、次のように設定します。



- ④ PLC2 メモリに温調器のアドレスを順に登録します。



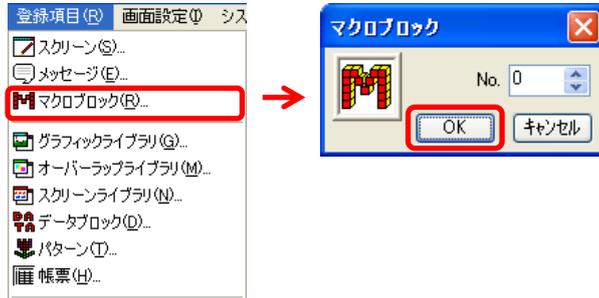
 PLC2 の転送テーブルで PLC1 メモリから PLC2 メモリに転送したい場合は、機能を [定期書き込み] にします。

以上で設定は終了です。

2-2 イベントタイママクロを使用する場合

● 設定手順

① [登録項目] → [マクロブロック] からマクロブロック No.0 を開きます。



② [表示] → [サポートダイアログ] をクリックして [マクロ編集サポート] を開きます。



③ [マクロ編集サポート] を次のように設定した後 [挿入] をクリックします。  
マクロブロックに書き込まれたことを確認し、ダイアログを閉じます。

マクロ編集サポート

転送

BMOV  
CVMOV  
CVSMOV  
FILL  
MOV

F0 = F1  
F1のデータをF0に書き込みます

F0: D00100      F1: #31001

データのサイズ:  WORD    DWORD

挿入コメント

上書

**挿入**      プレビュー

PLC1[D00100] = PLC2[#31001] (W)

カテゴリ : 転送

コマンド : MOV

F0 : D100

F1 : #31001

💡 PLC1 メモリから PLC2 メモリに転送したい場合は  
F0 : #31001、F1 : D100 にします。

マクロブロックNo.0 ( ) [無題.V8] - マクロエディタ

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ヘルプ(H)

ツールバー

(選択したコメントにジャンプします)

**0 PLC1[D00100] = PLC2[#31001] (W)**

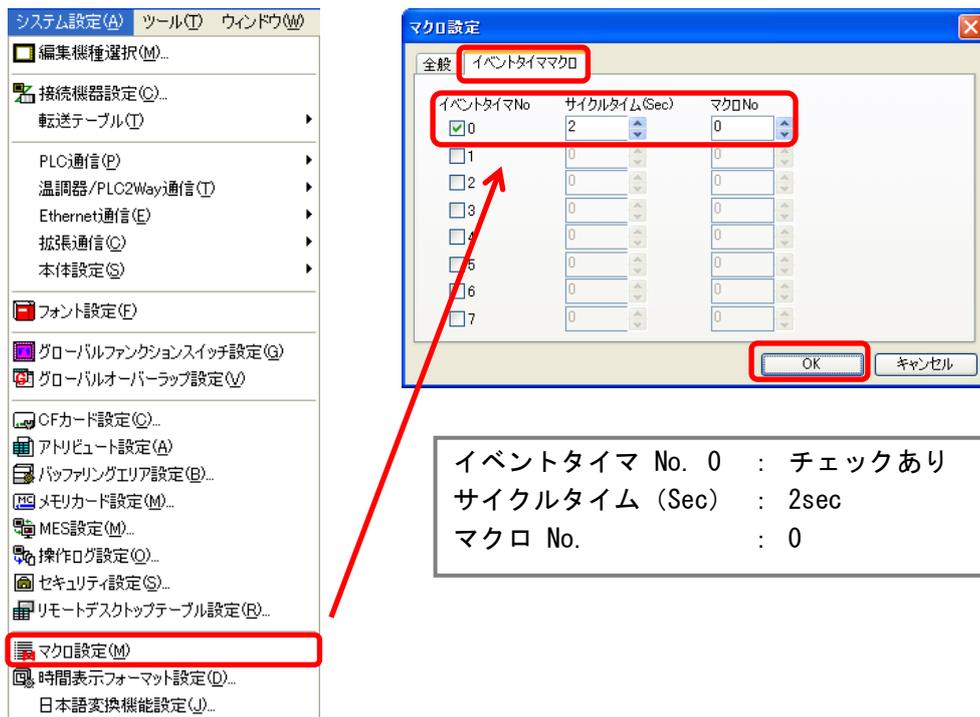
レディ



複数のメモリを転送したい場合、連番メモリであれば BMOV の使用をお勧めします。  
詳しくは『マクロリファレンス』を参照してください。

④ [システム設定] → [マクロ設定] を開きます。

[イベントタイママクロ] タブで次のように設定し、[OK] で閉じます。



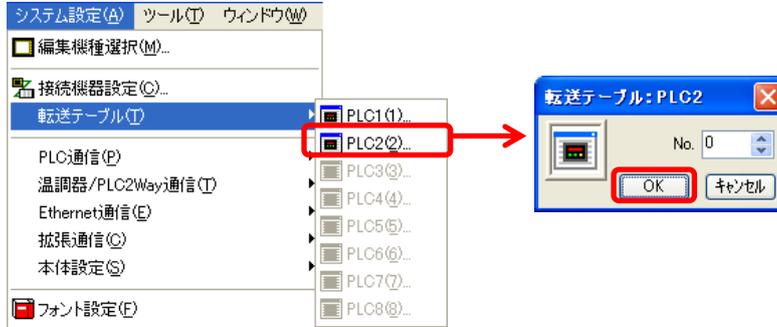
以上で設定は終了です。

### 3. ビットがONしたタイミングで読み書きする場合

#### 3-1 転送テーブルを使用する場合

##### 3-1-1 設定手順

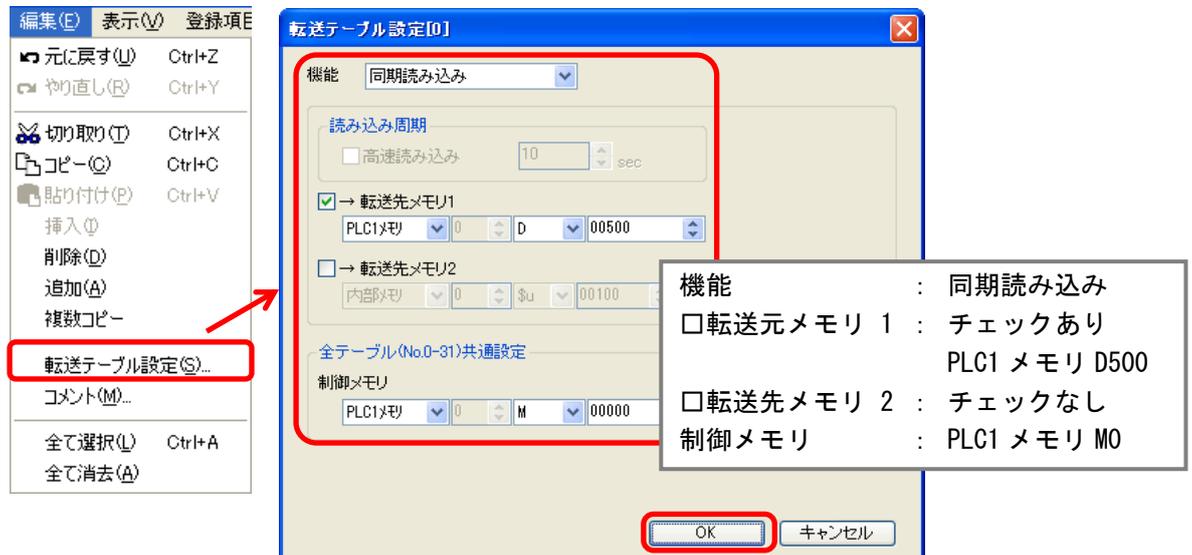
- ① [システム設定] → [転送テーブル] → [PLC2] からテーブル No. 0 を開きます。



- ② [PLC2 メモリ] に#31001 を設定します。



- ③ [編集] → [転送テーブル設定] を開き、次のように設定します。



- ④ PLC2 メモリに温調器のアドレスを順に登録します。



PLC2 の転送テーブルで PLC1 メモリから PLC2 メモリに転送したい場合は、機能を [同期書き込み] にします。

以上で設定は終了です。

3-1-2 同期読み込み/書き込み実行手順

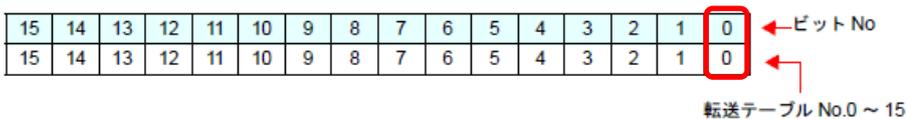
[同期読み込み/同期書き込み] は制御メモリで実行します。  
 制御メモリ n から連番で 4 ワード使用します。

制御メモリ n	内容	メモリタイプ
n	読み込み / 書き込み指令メモリ	→V
n+1		
n+2	読み込み / 書き込み確認メモリ	←V
n+3		

①制御メモリ n の 0 ビット目を OFF→ON します。

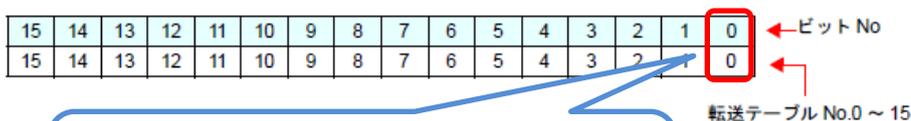
転送テーブル No. 0 が実行されます。

n



②制御メモリ n+2 の 0 ビット目が ON したことを確認して、①で ON したビットを OFF します。

n+2

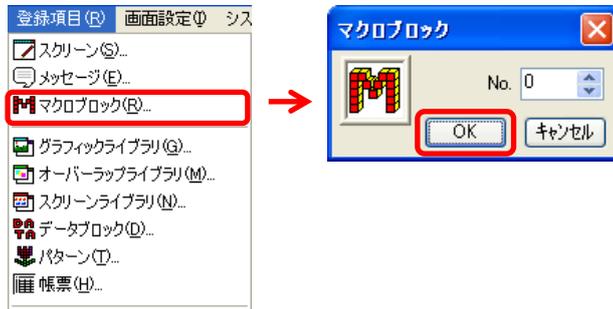


転送テーブル No. 0 の動作完了時に ON します。  
 制御メモリ n の 0 ビット目が OFF すると、  
 自動で OFF します。

### 3-2 グローバルマクロを使用する場合

#### 3-2-1 設定手順

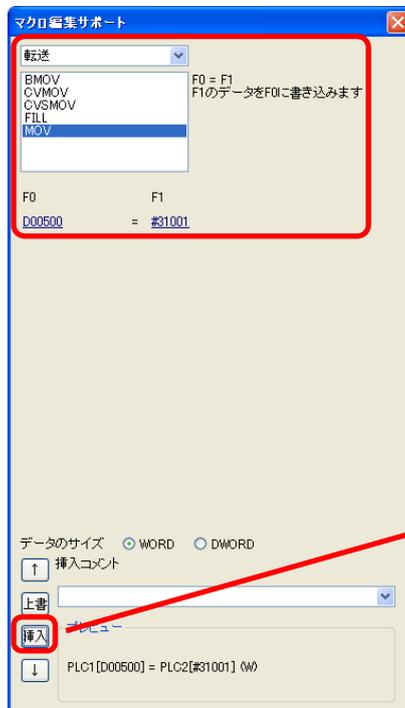
- ① [登録項目] → [マクロブロック] からマクロブロック No.0 を開きます。



- ② [表示] → [サポートダイアログ] をクリックして [マクロ編集サポート] を開きます。

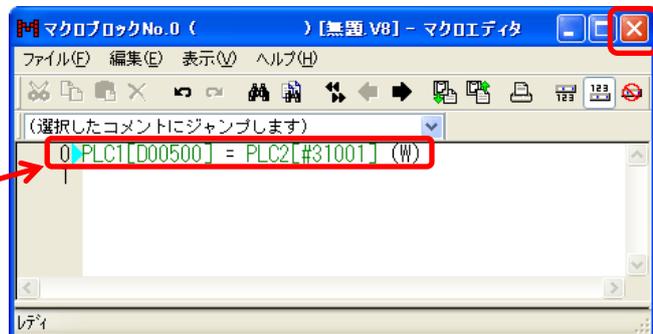


- ③ [マクロ編集サポート] を次のように設定した後 [挿入] をクリックします。  
マクロブロックに書き込まれたことを確認し、ダイアログを閉じます。



カテゴリ : 転送  
 コマンド : MOV  
 F0 : D500  
 F1 : #31001

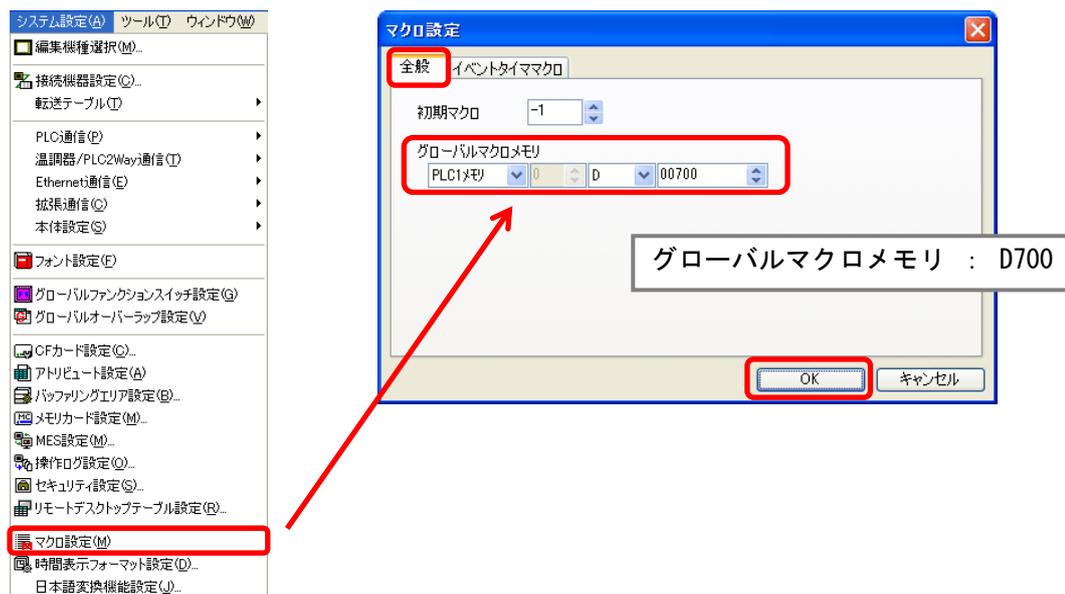
💡 PLC1 メモリから PLC2 メモリに転送したい場合は  
 F0 : #31001、F1 : D500 にします。



豆知識

複数のメモリを転送したい場合、連番メモリであれば BMOV の使用をお勧めします。  
 詳しくは『マクロリファレンス』を参照してください。

④ [システム設定] → [マクロ設定] を開きます。[全般] タブで次のように設定し、[OK] で閉じます。



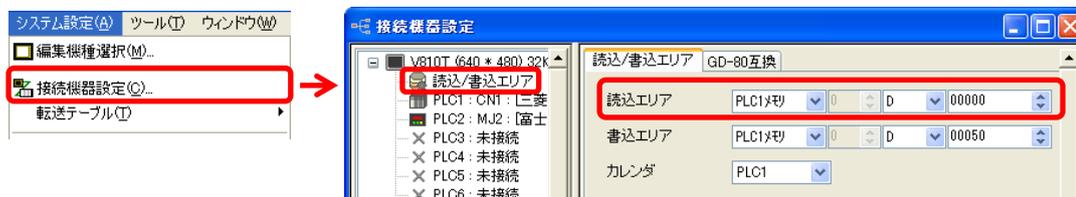
以上で設定は終了です。

### 3-2-2 グローバルマクロ実行手順

①グローバルマクロメモリに実行するマクロブロック No. を格納します。

②読込エリア n+1 の 8 ビット目を OFF→ON します。

マクロブロックが実行されます。



<読込エリア n+1>

15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00
							0	0	0	0					

⑥グローバルマクロ実行 [0 → 1] (エッジ)

③書込エリア n+1 の 8 ビット目が ON したことを確認し、②で ON したビットを OFF します。